令和4年度ブロック別研修会の取組　実践発表
～13ブロック　芸西村立芸西幼稚園～

1　園・所の概要

○園児数、クラス数、職員構成

年齢 クラス	４歳児 うみ組	５歳児 そら組	合計
園児数	21名	29名	50名
担任 特別支援	1名 ２名	1名 3名	７名
その他	園長１名　副園長１名　預かり保育12名　午前保育補助1名　事務員1名		

○めざす幼児像

⑴自分のことを自分でできる子ども
⑵生き生きした強く明るい子ども
⑶よく見、よく聞き、よく考えて行動する子ども
⑷豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを、のびのびと表現する子ども
⑸思いやりのあるやさしい子ども
⑹友達と心を通わせて遊ぶ子ども

○教育目標

「心身ともにすこやかで、明るく、社会性のある、のびのびした子どもを育てる」

2　研修目標

「各年齢の発達の特性を踏まえつつ、子ども同士の関わりが深まるような環境構成と保育者の援助について」

3　研修目標設定の理由

〇園の実態

- 友達と一緒に過ごすことを喜ぶ子どもが多く、泣いたり、困ったりしている友達がいると声を掛けたり、寄り添ったりする。
- やりたいことを見つけると、自分なりに考えたり、アイデアを出したりして取り組む。
- 一方、周りの友達に思いや考えを言葉にして分かるように伝えることが苦手で、遊びを継続して進めていく力が弱く感じる。５歳児後半になっても個々や少人数で遊ぶことが多い。

〇保育者の願い

- 自分の思いや考えを**周りの友達や保育者に分かるように伝える力**が身に付いてほしい。
- 多様な経験を自信につなげ、**友達とつながる喜びを感じながら、仲間と共に遊びを展開させ楽しめる**ようになってほしい。

〇取り組み

遊びや生活を通して子ども達がつながり、『友達（仲間）っていいな』と感じたり、子ども同士の関わりが深まったりするような環境作りや保育者の援助について学んでいきたい。そして、４・５歳児それぞれの発達も考慮しながら、クラスや異年齢の保育者間で子どもの実態を共有し、園全体で保育にあたっていけるよう研究を深めていきたい。

4　年間取組内容

4月	今年度の研修目標の決定と年間研修計画の作成	10月	公開保育・研究協議（4・5歳児）
5月	園内研修（親育ち支援研修）	12月	園内研修（10月の公開保育事後研修）
	園内研修（5歳児研究保育）	1月	1年間の振り返り（13ブロック交流会に向けて）
6月	園内研修（4歳児研究保育）	2月	13ブロック交流会への参加
7月	園内研修（5・6月の公開保育事後研修）	3月	園内研修（次年度に向けての計画づくり）

写　　真

５　成果

①子どもの姿や変容

◆遊びが少しずつ変化しながら継続するように（4歳児）

　子どもが取り組んでいる遊びを大切にし、子どもから出てきたアイデアを面白がって共に実現させようとしたり、必要な素材や道具を一緒に探したりすることで、遊びの内容が少しずつ変化しながら継続し、子ども主体の遊びとなっていった。

◆集団で遊ぶ姿が多く見られるように（5歳児）

　大人数やクラス集団で同じ目的に向かって遊ぶ経験を取り入れたことで、友達を誘い合って、サッカーや鬼ごっこなどの集団遊びを積極的に取り組むようになった。

写　　真

5　成果

◆自分の思いを言葉で伝えるように

　１学期は、友達に思いや考えを言葉にして伝えることが苦手だった子どもが、何とか自分なりに思いを表現したり、遊びの中で考えたアイデアなどを伝えたりするようになってきた。また、子ども同士のやりとりが以前に比べると増えてきた。

◆自分や友達の良さに気付き、互いに認め合うように

　子ども達の育ちの課題を職員間で話し合ったり、同じような方向で援助してきたことによって、一人一人の子どもが自分の強み(良さ)を知ったり、友達同士で頑張りを認め合ったりしながら、生活や遊びに自信をもって取り組む姿が増えていった。

◆より主体的に

　以前は「先生〇〇〇？」「これ、やって」とすぐに近くにいる保育者に頼る姿が見られていたが、「どうやってやったらいいと思う？」などと子どもに返したり、周りの友達を巻き込んで力を合わす経験を重ねていくことで、４・５歳児共に子ども同士でこれまでの経験を活かしながら、遊びの内容を考え進めようとするようになってきた。

5　成果

②研修体制に関わる内容

- 事前研修、事後研修に保育ウェブを活用したことで、子どもの姿や思いが可視化され、多様な視点で環境構成 や援助を振り返ったり、次の展開の可能性を探りながら、その予想に基づいた環境を準備するための具体的なアイデアや意見を出し合うことができた。
- １年間の振り返りに田の字法で協議したことで、課題に対する要因や今後取り組みたいことが明確となった。

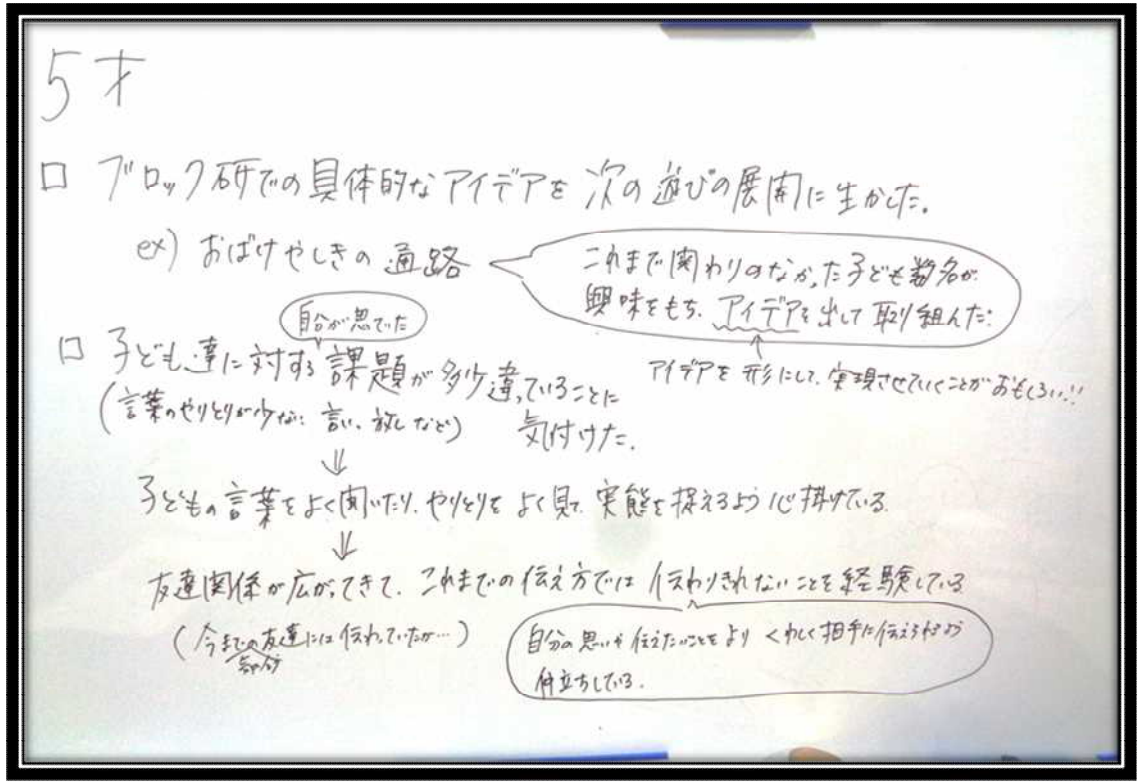
保育ウェブや田の字法などによって、それぞれの職員が視点をもって考えたり、意見が出せたりした。
そこで今後も、様々な手法を積極的に取り入れ、職員間で対等に話せる場を作りながら「こんなことやってみたい」とチャレンジしたくなる多様な見方や発見のある研修を行っていきたい。

写　　真

5　成果

- 今年度ブロック研修を受けるにあたって、事前研修だけでなく短時間ではあるが事後研修も行うようにした。公開保育後の遊びや子どもの姿の変化を出し合ったことで、改めて子ども一人一人の成長やクラスの育ちを再確認することができた。

- 事後研修の時に、公開保育や協議で学んだことにもう一度立ち返り、自身の保育に対する思い（今自分がどんなことを大事にしているのか、どんな子どもの姿や遊びに注目しているのか）を話すことが、一人一人の職員にとって自分の保育に対する思いを再確認する意味ある時間になったように思う。



来年度も引き続き研修後に全職員で振り返る時間を意図して取るようにし、子どもの姿や保育観について、語り合えるようにしていきたい。

5　成果

③保育者の意識や保育の実践の変容

◆遊びの発展を焦らないようになった

今、目の前の子ども達が楽しんでいることをよく見ていくことで、遊びの変化に気付くようになったり、より適切な環境となるよう場や物の精選を意識するようになった。

◆環境について具体的に話し合うようになった

子ども達の興味、関心から遊びが継続したり、豊かな体験となるよう、必要な素材や道具などの環境について、以前よりも職員間で具体的に話し合ったり、探して準備したりするようになった。

◆良さや課題を見直す大切さに気付いた

子どもの成長と共に、個々の子どもやクラス全体の良さや課題を捉え直し、その後もその都度見直していくことの大切さが分かった。

◆多くの目で子どもを捉えていく重要性を感じた

職員間で子どもについて話し合う中で、同じ子どもの異なった側面を知り、より深くその子どもを理解することができた。子どもをどう捉えるかによって、関わり方や援助も違ってくるため、子どもを多くの目で多面的に捉えることの重要性を再認識した。

5　成果

④公開保育を行って

- 他園の先生方に保育を見てもらい、当日捉えていなかった子ども同士のやりとりの姿をたくさん教えてもらった。そのことにより、クラスの課題と考えていた言葉でのやりとりは、担任が思っていたよりも多く見られたようで、子ども達が成長していることに気付くことができた。

- 自園は正規職員や臨時職員を合わせた職員数が少ないが、公開保育を行い、環境（素材の数や道具の種類、場の構成など）はどうであったか、気になる子どもへの関わり方や育ちつつある力は何かなど、多様な意見を聞くことができて、学ぶことが多くあった。

- 明日へつながる保育として、協議の中で「こんなこともしてはどう？」と新たなアイデアをもらい、その時期に楽しんでいる遊びにつなげて実践したことで、子ども達の経験や学びが広がったと思う。

（　例①　色水遊び　　例②　おばけやしき　　→　次のシートに表記　）

例①　色水遊び

「作っている色が分かりやすいよう、机に白いシートを敷いてみては」

「小さな透明容器や色見本など、より楽しくなるような道具は色々あるよ。探してみては」

↓

色水を入れた容器を色の濃さ順に並べてながめたり、時間経過による色の変化に気付いたりするようになった。また、色見本と実際に見比べて「あっ、これはあさぎ色や！」と自分の作った色の名前を知ることにつながった。

例②　おばけやしき

「おばけやしきに入る前に、ワクワクするような通路を作ってみては」

↓

　通路作りを子ども達に提案してみたところ「トンネルの入り口にシャラシャラつけたら？」などと、これまでその遊びに関わりのなかった子ども達も興味をもち、取り組むようになった。おばけやしきに入ることを怖がっていた子どもは、トンネルをくぐって入ることが楽しみになり、参加することができた。

写　　真

6　来年度に向けて

①子どもの姿から、さらに伸ばしていきたい力

◆子ども同士の関わりを深める

今年度積み重ねてきた子ども同士のつながりを大切に、さらに関わりを深めるために『友達と関われているなと思われる姿とは』という着眼点を意識し、見逃さないようしっかり捉えていきたい。

また、友達関係が築きにくい子どもに対しての援助を園全体できめ細やかに取り組んでいきたい。

◆認め合える関係を作る

子どもが友達の存在や良さを実感するような保育者の言葉掛けや、やりとりのモデルとなる役割を意識して行っていきたい。

また、子どもが自分自身の良さにも気付き、自信をもって仲間の一員として生活や遊びに取り組む中で、友達と互いに認め合える関係につなげていきたい。

写　　真

◆語彙力を高める

自分の伝えたい思いを相手に分かるように言うと共に、相手や周囲の状況に応じて言葉を選んだり、言い換えたりすることができるよう、子どもの話をよく聞き、丁寧に返しながら言葉を豊かにしていきたい。

②研修体制・保育実践・保育の質に関すること

◆指導計画について

- **教育課程と月案**は、週案のファイルに一緒に綴じ、週案を立てる際に大まかな見通しとなるよう照らし合わせ、気付いた所を個々で修正していく。
- **年間指導計画や月案など**の全職員での見直しは、計画に組み込んで、定期的に指導計画や子ども達の実態について話し合いながら、その時期にしかできないことや大切にしていきたいことは何かなどの内容を具体化させ、保育の充実につなげていきたい。
- **週案**については、子ども達の姿は評価・反省に書いているが『週のねらいについてはどうだったか』『あの遊びでどんなことを楽しんでいたのか』『学んだことは何か』といった視点については、考えるものの評価が難しく感じることがある。ノンコンタクトタイムを週１回は取るようにし、じっくりと振り返る時間にしたい。

◆その他

- **特別支援児について**の時期ごとの配慮点や近頃の様子などの情報は、預かり保育時間のパート職員と共有できるように、パート会に支援担当保育者が参加したり、共有ノートに書いて目を通してもらったりして、しっかりと引き継いでいくようにしたい。
- **行事や保育内容**は、これまでの自園の風土を大事にしながらも、子ども達にとって豊かな学びにつながっているのか、常に全職員で問いながら見直していきたい。